



東京部会(第134回)・大阪部会(第84回)合同部会

日時: 2023年6月10日(土) 15:00 -17:00

場所: Zoomによるweb上で開催

参加者: 17名(全員zoom)

【内容要旨】

(1) 塙絵里子先生(都立農業高等学校)より「家庭科とコラボした金融教育の授業」の報告があった。

昨年の「春の経済教室」のテーマである、「家庭科とコラボした金融教育」の実践編の紹介である。

実践は報告者の勤務校である都立農業高等学校で23年の2月16日に公開授業で行われたもので、報告ではその時の授業案がまず説明された。

授業は「家庭基礎」をベースとした全5時間の授業の最後でのもので、対象は食物科の1年生の生徒。食物科では調理師免許が取れるため、将来的には自分の店をもちたい希望を表明する生徒の多いクラスでもあり、比較的当事者意識は持っているとのことである。

授業流れは以下の通りである。

導入で、家庭科から、お金のもつ5つのちからのうち「増やす」を扱う事の確認とリスクとリターンの復習を行い、公民科から日本の金融資産に関するクイズと国際比較について説明する。

展開①では、共同で作成した4万円を4ヶ月ドルコスト平均法(定額購入法)で運用させるシミュレーションに取り組みせて、その結果を振り返るなかで、長期・積立・分散の資産運用の原則を紹介、さらに、ドルコスト平均法は、資産・地域・時間の分散の三つのどれかを問うクイズをいれて定額購入法のメリットを確認する。

展開②では、メリットがあるのになぜ長期・積立・分散の資産運用ができないのか行動経済学から解説をする。クイズを通して自分のくせを発見させて、人間が利得よりも損失の価値を大きく感じ、金額が大きくなるほど、感覚がマヒすることに気づかせる。その上で、これを投資に当てはめるとどうなるかを解説する。さらに、コイントスゲームをやらせて、自分がリスク愛好かそうでないかを自覚させるという流れである。また、ドルコスト平均法は市場が上昇中の時には効果があるが、常にうまくゆくものではないことにも触れている。

最後にまとめとして、投資の社会的意味を簡単に触れ「公共」への導入にする、と言うものである。

質疑では、新井からの生徒の反応はどうかという質問では、クイズなどは盛り上がるがドルコスト平均法は難しいという反応であったとのこと。それは、具体的な企業で取り組みせるのかモデル企業でやらせるのかという担当者の意見の違いの反映だったかもしれないとの回答があった。

篠原代表からは、投資の社会的意味に関しては、ストックとフローの違いがあるので、パーソナルファイナンスの授業と無理に結びつけることはないのではという指摘があった。また、教材としてはよく出来ているがこれで何を教えようとしているのかをもう一度振り返って欲しいとの要望があった。さらに、今回のシミュレーションでもそうだったが、株式学習ゲームなども時間を区切って取り組みせるシミュレーションでは投機の話になってしまうので、そうならないような活用の工夫、例えば、株式ゲームなら前年度、前々年度のデータなどを示してそこから発見できるものは何かを問うなどの工夫、が欲しいというコメントがあった。また、やらせるなら具体的企業でのシミュレーションがよいのではとの意見が表明された。

それに対して、塙先生から、企業に関しては具体的企業扱う方が良いと思うとの回答があった。また、株式学習ゲームの教材としての意義は十分にあると評価しているので、考えてゆきたいとの回答があった。

(2)「高等学校の定期試験から授業を考える」報告があった。

この報告は、当初、蘆名伸明先生(埼玉県立飯能高等学校)と関本祐希先生(大阪府立市岡高等学校)のお二人の発表の予定であったが、校務の都合で欠席されたので、準備された資料に基づいて、新井(元目白大学非常勤講師)から紹介とコメントを行ったものである。

蘆名先生のテストは、1年生むけ「公共」での本年度の中間考査のもので、資料として、テスト問題、返却時に使ったスライド、ボーナス問題の生徒の回答の三点の資料が提出され、紹介された。

関本先生は「授業で育んだ思考力を定期考査でどのように問うのか」のタイトルの資料で、論述問題の出題が物理的に難しいこと、選択問題として問う形の問題では、「地理総合」での図法の基本を授業で学び、定期



テストで応用問題として問うケースと、逆に定期テストでは基本的知識を確認しその後の授業で応用的思考力を養う授業につなげたケースの資料が紹介された。

新井からは、蘆名先生のテストは意欲的であり、日頃の授業の確認となっていること、そのなかでも多様な進路志望の生徒がいるという特質から、中学校の入試問題、高卒認定試験の問題、大学共通テストの問題などもとりいれて動機付けにしている点、ボーナス問題の設定、「ひまつぶし」と題されたかなり高度な文献紹介にユニークさがあることが指摘された。

また、私立中学の入試問題を使った文化祭の出し物に関する多数決問題を取上げ、高校生向けには数字の設定をもう少し複雑にすることで、「公共」で扱う社会的選択論に近くなるのではとの指摘がされた。

関本先生のテストに関しては、論述問題をどうしたら出すことができるかを考えたいという点と、応用的思考の授業手取上げられた豊作貧乏に関しての扱いの注意点がコメントとしてあった。

検討では、小谷勇人先生(春日部市立武里中学校)から、複数担当者がいると実際には授業もテストも制約があること、中卒認定試験を使ってみたいと思っているがなかなか使いこなせないとの報告と、ボーナス問題は良いヒントであるとの感想がよせられた。また、100点で収めているか105点にしているのかの質問があった。

ボーナス問題は中学では難しいかもしれないという新井のコメントに関して、兼間昌智先生(札幌大学非常勤講師)から、現役時代20年前からやっていて効果があり、旧課程だったので「関心・意欲・態度」の観点で100点のなかでやったとの報告があった。

塙先生からも、ボーナス問題を自分もやっていて105点でやっていること、論述問題に関しては、生徒にヒントをあたえながらかなり本格的な論述問題を課しているとの報告があった。

さらに、ボーナス問題に関しては、蘆名先生は「主体性」に区分しているが、違うのではと指摘が複数の先生から寄せられた。

杉田孝之先生(千葉県立津田沼高等学校)から、「歴史総合」での論述問題の例が紹介され、複数担当者でも準備をしておけば、初見の論述問題が出題可能になるとの例が示された。

(3)市川慶太先生(さいたま市立白幡中学校)より「中学のテスト問題」の報告があった。

市川先生は、定期テストが100点満点である必要があるのか、そもそも定期テストである必要があるのかなどテストの意味や意義に関して日頃から問題意識をもって、今回あらためて「良い問題とは何か」「どんな力を身につけさせたいのか」を考えたいとして報告を始められた。

最初に、地理的分野でのMicrosoft Formsのテスト機能を使った単元テストの紹介があった。これは何度も、またどこでも挑戦できるものなので、その挑戦具合をみることで生徒の学びが分かるとの指摘があった。

地理の定期テストでは、地図帳持ち込みのテスト、資料読み取りの問題で判断できないという選択肢をいれたもの、ある地域学習成果が他地域の学習に転化出来ているかを問う過去に出題した問題が紹介された。また、埼玉県の高校入試問題を思考・判断問題にするための改善案も示された。

歴史的分野では、一年生の歴史入門の学習を踏まえた定期テストで、まだ学んでいない事象の原因を年表から探し出させる問題、「原因」「結果」「影響」「推移」を働かせて起きた出来事を選ばせる年表問題、地理と組み合わせた歴史の問題、持ち込み型のテストでの二人の暗殺された政治家の背景の違いを書かせる論述問題事例が紹介された。

公民的分野では、貿易ゲームでの出来事カードの円高・円安の影響を選択させる問題と、商品価格が高くなった理由を需給曲線で考えさせる問題が紹介された。

最後に、実習生の古典的授業スタイルに対して、その時代に関するAIによるその時期の回答を示し、これからの教育では授業スタイルだけでなく、テスト問題のあり方自体が変わってゆくのではないかとの問題提起をされて報告を終えた。

検討では、塙先生から、授業開きでChatGPTを紹介していること、すでに生徒でChatGPTをつかって論述を書いてしまう生徒が出ていることを知らせてくれた先生もいることなどが紹介され、現代の授業やテストの再検討が必要になっているとのコメントがあった。

大倉泰弘先生(大学入試センター)からは、授業あつてのテストであること、授業が大事であり、あまり評価にこだわらなくとも良いこと、コラボ授業の時には公民科としての授業のねらいを明確にしておいて欲しいとのコメントがあった。



経済教育ネットワーク
Network for Economic Education



(4) 鈴木深氏(東京証券取引所)から「夏休みの経済教室」の準備状況に関して、9日からHPで申し込みが始まったこと、ちらしは19日の週から発送すること、資料の締め切りが8月9日になったこと、オンラインでの資料の提供の仕方など今後つめたいとの報告があった。

以上、記録と文責 新井

<input checked="" type="checkbox"/> テスト問題 (新テストなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	新聞教材(NIE)
---	--	--	---	-----------

次回開催予定: 2023年7月8日(土)15時00分~17時00分 大阪部会と合同で対面とzoom会議

対面会場: 慶応義塾大学三田キャンパス

議題: 夏休み経済教室の講義・提案に関する内容検討など